Dr. 健康コラム

茨城県における地域医療の現状と課題について（前編）

城里町国保七会診療所　上井　雅哉

城里町は、2023年時点の人口が約18,000人、高齢化率が約39%であり、2024年には高齢化率が40％になる見込みといわれています。人口については、2020年に比べて800人以上減少しており、県北地域や県西地域同様、過疎の状況にあると考えられます。

また、団塊の世代が後期高齢者になる2025年、高齢者数がピークを迎える2040年を経て、少子高齢化に加えてさらに人口減少が進むといわれています。

これらの人口構造の変化により、今後は医療のみならず介護ニーズにも応え、地域包括医療・ケアシステムの構築を各地域で進めていくことが求められています。

○医師少数県である茨城県

令和２（2020）年医師・歯科医師・薬剤師統計によりますと、日本の医療施設に従事する人口10万人に対する医師の数が256.6人であることに対し、茨城県は193.8人となっており、全国でもワースト２位となっています。また、国が算定した全国ベースで医師の多寡を比較するための指標によれば、茨城県は全国で43位の「医師少数県」になっています。さらに、診療科別医師数においては、主たる診療科が小児科である医師の数は、全国でも最下位でした。

茨城県内に９つある医療圏のうち、つくばと水戸は「医師多数区域」である一方、他の医療圏のうち６つの医療圏については、全国下位の「医師少数区域」となっています。城里町は水戸の医療圏に含まれますが、24時間対応できる救急病院がなく、七会地区については、容易に医療機関にかかれない地区のことを指す「無医地区」を含むへき地を有しています。茨城県は、医師少数区域を医師確保計画とリンクさせ、５年ごとに改定される保健医療計画（令和６年度から第８次計画として策定済）で見直しつつ、医師の地域的偏在、診療科による偏在の解消を目指していくとしています。

茨城県は県北山間地域にへき地を有し、無医地区および無医地区に準ずる地域を指定し、都市部との医療格差を縮小するため、へき地医療支援機構（県立中央病院内に設置）主導でへき地診療所への医師派遣、へき地医療拠点病院からの巡回診療の実施等を行ってきました。

2014年調査では、無医地区数が19に対し準無医地区数が２でしたが、2019年には18に対し６、2022年には15に対し９となっており、無医地区数が減少する一方、準無医地区数については増加している傾向を示しました。また、限界集落についての議論があり、居住者の人数が減っているため定義上は無医地区とはされないが、地理的に容易に医療機関を利用できない地区が今後も増えると予想されています。

茨城県には離島がないうえに道路の整備も進んでいるため、入院や手術を要する重症患者を365日24時間体制で受け入れることのできる医療機関を指す「二次救急医療機関」へのアクセスが良くなりましたが、基本的に自動車を所有し運転できることが大前提であり、普段から自分で自動車を運転しない高齢者等の対策が必要です。そういった事情を踏まえて茨城県では、城里町のデマンド交通等、利用者の使いやすさや効率の良い交通サービスの提供を目指しています。

また、民間医療機関の地域医療への貢献度については言うまでもないことですが、実際には後継者問題による廃業も少なくなく、新・専門医制度にともなう派遣医師の医育機関への引き上げ、さらに医師の働き方改革と地域医療の両立という新たな課題も生じており、医師不足地域の医療をどう守っていくかといった対策が急務となっています。